

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2018年度 パフォーマンス向上会議情報(2018年4月5日(木)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2018年4月5日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	備考
1	<p>【1号機原子炉格納容器ガス管理設備の核種分析装置盤A機器異常警報の発生について】 1号機原子炉格納容器ガス管理設備の核種分析装置盤Aに機器異常警報が発生し、計測値指示の低下を確認した。 なお、核種分析装置盤は2系統あり、B系統にて監視可能。 現場調査により、検出器と分析装置間の計装ケーブルの固縛が外れていることを確認したため、当該ケーブルの整線と固縛を実施したところ、警報の消灯及び計測値指示の復帰を確認した。</p>	G II	2018.4.6 再審議にてグレード変更 G III→G II
2	<p>【APD(電子式線量計)未装着による管理区域への入域について】 協力企業作業員が管理区域入域する際に、運用開始した緊急時避難指示システムの端末の借用に気を取られ、APDを登録装置に置き忘れてしまった。 そのため、APD未装着のまま構内休憩所まで移動してしまった。 その後、本人にAPD未装着であることが連絡され、入退域管理棟へ戻り退域したが、その間の約40分間APDの未装着となった。 なお、APDIは未装着であったが、ガラスバッチ(蛍光ガラス線量計)は携帯しており、個人線量の評価に影響なし。</p>	G III	